

# 小平市立小平第十小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

この調査は全国の公立小学校6年生及び公立中学校3年生の学習状況を把握・分析し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- 主として「知識」の力を見る国語A、算数（数学）A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技術などが中心の問題です。

- 主として「活用」の力を見る国語B、算数（数学）B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容が中心の問題です。

- 主として「知識」と「活用」の力を併せて見る理科

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

#### 課題

国語A・Bともに、正答率は全国平均を7.3ポイント上回っていた。特に、国語A「書くこと」においては、全国平均を13.6ポイント上回った。

国語Aの「読むこと」の領域のみ、正答率が全国平均を0.4ポイント下回った。

「登場人物の心情について、情景描写を基にとらえる」観点の問題で、正答率が全国平均を3.1ポイント下回った。

物語の登場人物の心情が、行動や会話だけでなく、情景等にも暗示的に表現されていることに、より気づけるようにしていく必要がある。

### 学校で取り組む具体的な改善策

課題で挙げた「読む能力」については、本校の校内研究「自ら考え、共に学び合う児童の育成～国語科「読むこと」の指導を通して～」をさらに進めていくことで育成していく。その中で、「根拠をもって読み深める」「友達と意見を交流し、想像を広げる」活動を取り入れ、児童の学びをより深いものにする。また、児童の学び合いを促進するための「掲示物の工夫」「ハンドサインによる意思表示」を推進する。

### 【算数】

#### 状況の分析

#### 課題

正答率で見ると算数Aでは3.5ポイント、算数Bでは8.5ポイント全国平均を上回った。

算数Bの「数学的な考え方」という観点では、全国平均を8.2ポイント上回ったものの、正答率が60%に達しなかった。

「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる」という出題への正答率が31.3%であった。

学習したことを関連付けて考えていく力を伸ばしていくことが、本校の課題といえる。

## 学校で取り組む具体的な改善策

算数全体としての成果は表れているので、これからも本校の算数指導法「十小算数スタンダード」を継続し、児童が見通しをもって臨めるようにする。その中で、「学習の関連付け」に向け、課題設定や集団検討を取り入れた学習を行い、気づきを得られたり学びを深めたりできるようにする。また、社会科の資料等を活用し、グラフを読み取り、分析する機会が日常的であることを児童に意識させていく。

### 【理科】

#### 状況の分析

正答率を見ると、全体では全国平均を2.7ポイント上回っていた。しかし、「自然事象についての知識・理解」という観点のみ、正答率が全国平均を6.5ポイント下回った。

#### 課題

「知識・理解」に関する問題のみ、正答率が全国平均を下回ったことから、学習内容は理解しているものの、科学的な言葉の習得が不十分な児童が多いことが分かる。

## 学校で取り組む具体的な改善策

各単元においての「科学的な言葉」の習得をより確かなものにするため、授業導入時のフラッシュカードによる確認やワークシートを用いた理科用語の習熟を進めていく。それとともに、学習で理解したことを日常生活に関連付けることをより意識した授業構成を工夫し、授業を改善していく。

### 【質問紙】

#### 状況の分析

「新聞を読んでいますか」「ニュースを見ますか」という質問項目では「当てはまる」と回答した児童が全国平均を上回り、や社会への関心が高いことが結果から読みとることができた。

だが、「学校のきまりを守る」では、「当てはまる」という回答が16.5ポイント全国平均を下回った。

#### 課題

分析により、社会への関心が高いことが分かると同時に、社会参加につながる「地域行事への参加」「ボランティア活動」の項目では、「当てはまる」と回答する児童が全国平均を下回っている。

児童は地域への関心があるものの、実際の行動につなげていくことが難しい状況と推測できる。

## 学校等で取り組む具体的な改善策

習い事等の活動があり、社会参加への関心・意欲はあるものの地域行事に参加が難しい現状を理解しつつ、これまで行っている青少対や子どもクラブの情報を担任から児童に伝える、プリントを配布する、学校だより・学年便りに記載することを継続することで機会がたくさんあることを知らせていく。「学校のきまり」については、高学年児童をリーダーとした縦割り集団活動「なかよし班活動」を推進し、学校のリーダーとしての振る舞いを身に付けさせる。このことで児童の規範意識の高まりにつなげていきたい。